

平成28年度「市役所の仕事」花まる通信簿(平成27年度実績)

担当課 15農林水産課

Plan	◆事務事業の概要◆		会計区分	一般会計	事業通番	8754	事務事業コード	1504
事務事業名	園芸作物振興事業			開始年度	平成17	終了年度	未定	
種類	ソフト事業(任意)	根拠法令	無し		例規等	佐渡市農林水産振興事業補助金交付要綱		
将来ビジョン	1. 産業の振興 (1)農林水産業の振興						H26:重点●政策○	-
H27施政方針	該当無し						H27:重点●政策○	-
H28施政方針	1. 元気な産業と安定した雇用の創出 (3)販売体制と生産・流通体制の確立						H28:重点●政策○	○
事業概要	おけさ柿の生産は、高齢化や後継者不足により、市場での需要があるにもかかわらず、生産者・樹園地・生産量が減少している。 そのため将来、佐渡産おけさ柿の生産の核となるモデル団地づくりを目指すことを目的として、次の事業に取り組む。高品質化、高付加価値化を目指すことと合わせ、共同化によるコスト削減や将来を見越した改植計画等を記した「プラン」の作成とプランに沿った再生への取組に対してモデル事業として支援する。							
対象	園芸農家							
意図(対象をどのようにしたいか)	おけさ柿の環境ブランド化を図るとともに、ルレクチェなどの園芸作物の生産を拡大する。							

Do

◆将来ビジョン成長力強化戦略指標◆

項目名	戦略指標	H24現状	H31目標
持続的な経営の展開	主要農産物の販売額	6,294百万円/年	6,400百万円/年

◆事務事業の目標(成果)指標◆

目標(成果)指標名		単位	26年度実績値	27年度(評価年度)		28年度目標値	29年度目標値	31年度目標値
算式	指標の算式			目標値	実績値			
	園地規模拡大	a	661	300	204	300	300	300
算式	規模拡大申請面積							

◆事務事業を構成する細事業の事業費・成果指標◆

枝番	細事業名		H26決算額	H27決算額		H28当初予算額	H29以降の予算の方向性		重点細事業
	指標	目標(成果)指標名	H26実績値	目標値	実績値	H28目標値	事業の方向性		
1	新技術及び新品種導入支援事業		0	467		525	予算	維持	
	指標	支援農家数	-	1	1	5	事業	維持	
2	野菜生産拡大支援事業		230	866		900	予算	維持	
	指標	作付面積	6	600	575	600	事業	維持	
3	おけさ柿等生産支援事業		0	1,121		900	予算	維持	
	指標	支援面積	-	600	160	600	事業	維持	
4	園地規模拡大事業		2,640	817		1,200	予算	維持	
	指標	規模拡大面積	661	300	204	300	事業	維持	
5	一般経費負担金		14,630	1,738		612	予算	維持	
	指標	-	-	-	-	-	事業	維持	
6	野菜生産支援事業補助金		0	0		1,830	予算	減額	
	指標	支援対象面積	-	-	-	150	事業	縮小	
事業費の合計(千円)			17,500	5,009		5,967			
財源内訳			国庫支出金	0	0		0		
			県支出金	0	0		0		
			地方債	0	0		0		
			その他	0	0		0		
			一般財源	17,500	5,009		5,967		

Check		◆事務事業を構成する細事業の評価◆			A：適正である B：検討の余地あり C：見直しすべき	
枝番	細事業名	妥当性	有効性	効率性	課題と対策	
1	新技術及び新品種導入支援事業	B	C	B	農業者の所得向上には品質の向上及び生産量の確保が必要であり、新たな技術を取り入れ農業者の技術の向上を図る。	
2	野菜生産拡大支援事業	B	A	B	販売野菜生産者の拡大を図る。	
3	おけさ柿等生産支援事業	B	A	A	生産量の維持には新植が必要であり、国の改植事業と平行して園地の若返りを図る。	
4	園地規模拡大事業	B	A	A	担い手への園地集積を図り農業者の所得向上を図る。	
5	一般経費負担金	B	A	A		
6	野菜生産支援事業補助金	B	A		佐渡産野菜の生産振興を図るため、南部地区で産地化が進むアスパラガスを島内に拡大するため、植え付け時の資材費の支援を行い面積の拡大を図る。	
Action		◆今後の事務事業の方向性◆				
評価(担当課長)		事業の方向性	縮小	予算の方向性	減額	
事業の方向性 (事業全体の課題や改善方策など)		高齢化等によりおけさ柿及び野菜等の生産量が減少しており、野菜は島内需要が見込まれる品目を優先に生産と市場での流通量を確保するため、農業者には販売を意識した生産誘導を推進する。果樹についてはおけさ柿の生産量を確保するため園地の改植と新植を推進する。野菜や果樹には西洋梨やアスパラなど生産量が伸びてきている品目もあり、その生産拡大を推進する。				